

第2回栗原圏域宿泊事業者部会

【日時】令和7年9月2日（火）午後2時から午後4時まで

【場所】第一会議室西

【委員からの主な意見】

1. 宿泊税活用施策案について

（1）施策1 戰略的な観光地域づくり

- ・地域における宿泊税を活用した事業については、栗原市主体の事業はもちろんのこと、他圏域の成功事例などを栗原地域で展開できるような、県の俯瞰的な視点が反映されるような施策を取り入れてほしい。また、この場に参加できない事業者の方にも広く平等に分配される施策を望む。
- ・経営上、施設修繕費等が増えており、新しいチャレンジをしたくても予算を出し辛い。そのような状況でも、事業者が新しい取組にチャレンジできる機会をいただけるような施策を望む。
- ・観光協会等の団体は、やりたいことがあっても予算の制約等で計画的な活動が難しい面がある。また、事業を動かしていく人材も必要で、その強化に向けては、民間の負担を減らし公共的な予算を入れてもらいたい。
- ・栗原圏域全体の観光を考え、宿泊事業者や交通事業者など関係者がアイディアや強味を活かせる組織として宿泊税を活用してDMOをつくり、国の補助事業などにトライできると良い。また、こうした組織で、中長期的な観光振興を、インバウンドも含めてやっていけると良い。

（2）施策2 周遊性向上のための二次交通対策

（意見なし）

（3）施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

- ・宿泊業界の人手不足解消策として、都市部の学生など地域外の人材と事業者をウェブ上でマッチングする「おてつたび」のような手段を使うことで、人材不足の解消につながる。更に、若年層の来訪促進や関係人口の創出、移住や就職への繋がりも期待できるのではないか。

（4）施策4 効果的なプロモーションの展開

- ・宮城・栗原の認知度は低いので、海外（特に台湾など）で開催される旅行博への積極的な参加や、SNSの活用などを通じて認知度を高めていく必要がある。

2. 圏域での施策活用イメージ

（1）施策1 戰略的な観光地域づくり

- ・観光客を呼び込めるような栗原市の観光資源をリストアップして、宿泊に繋がるような土台作りをしてほしい。
- ・インバウンドだけでなく、あまり来てもらっていないという国内の西日本の方や女性などをターゲットに、「リトリート」と言われる心の癒しにつながる滞在など、新しい分野や隠れたニーズについて探るのも良いのではないか。

(2) 施策2 周遊性向上のための二次交通対策

- ・宿泊施設共同運行は、あったらいいと思うが、最初からシステム化するのではなく、施設単位の補助など小規模に始めるのも一つだと思う。実証を通じてまず利用者のニーズを把握していただけるとありがたい。
- ・タクシーは時間帯によるニーズの差が激しく経営的に厳しいときいており、タクシーの台数の維持につながるような交通事業者への手厚い支援を検討してほしい。
- ・宿泊事業者が自分たちのできる範囲で、送迎用の車を使って観光の依頼に対応でき、それに対する補助も受けられるような仕組みがあると良い。
- ・現在、朝の時間帯は、市民の病院利用にタクシーが使われており、タクシーをお願いしても来ていただけない。観光客が利用したいと思った時に乗れないのが現状なので、タクシー事業者への支援など、何か良い方法があれば良いと思う。
- ・くりこま高原駅から花山の温泉地までは、タクシー料金も高額になるので、現在は無料で送迎している。旅館から平泉まで行きたいといったニーズもあり、そうした宿泊客の送迎を交通事業者とシェアできる仕組みを構築できると良い。